

Jダンス

JPOPはなぜ歌からダンスに
シフトしたのか

若杉実

風見慎吾とLL BROTHERSに始まり、HIRO(EXILE)、

SAM(TRF)、安室奈美恵、モーニング娘。を経て、

AKB48、Perfume、三浦大知とFoorinに至るまで、

日本10大ダンサーの軌跡から浮かび上がる

「Jダンス」の すべて!

史上空前のダンス天国・日本は
いかにして誕生し、
これからどこに向かうのか?

J
ダ
ン
ス

J
P
O
Pはなぜ歌からダンスにシフトしたのか

若
杉
実

星海社

179



SEIKAISHA
SHINSHO

序章 Jダンスとはなにか

ダンス天国

「ダンス天国」は米ソウル歌手のウィルソン・ピケットが1966年に放ったスマッシュヒットである。ニューオーリンズの歌手クリス・ケナーが原作だが、ピケットの好記録を機に数多くのアーティストがカバー、日本ではウォーカー・ブラザーズの版によっていちやく知られるようになった。

そもそも「ダンス天国」というタイトルは世界の中でも日本だけしか通用しない。原題は「Land Of 1000 Dances」。邦題の命名者は不詳だが、以降この曲とは無関係でもダンスが盛んな状況を表現するのに最適な惹句として、「ダンス天国」はあらゆる場面で頻繁に使われ始める。

日本はいつからダンス天国になったのか。そのことを明確にするにはそれなりの調べが必要になる。ただしダンス天国と呼ばれることがこれほどふさわしい時代は、過去になかった

目次

序章

Jダンスとはなにか

3

ダンス天国 3

ダンス人口 5

ストリートダンス 7

女社会の昭和 8

ブレイクダンス 10

映画の中の“60秒” 11

ダンス？ 武術!? 12

オリンピック競技になる 13

風見慎吾

28

ふたりの師 30

歌謡曲を変えた 32

衣装も変えた 34

歌も捨てた 35

ヴォードヴィリアンとして 38

LLBROTHERS

41

ダンス甲子園 42

ダンサーがタレントになる 44

第

2

章

1983年グラミーの衝撃 46

ニューダンス 48

CD、ドラマ・デビュー 51

異例から慣例へ 52

そのときSMAPは 54

ローラースケートとダンス 55

黒に染まる 57

兄弟が残した道 59

H I R O (E X I L E)
62

前史 62

“亡命からのスタート” 65

ライバルはZOO 67

ジャパニーズ・ソウル・ブラザーズ 68

歌があってダンスがある 70

フロントアップダンサー 73

Choo Choo TRAIN 再発 75

円環の舞 76

祭りのあと 78

大編成 80

グループではなくチーム 85

SAM (TRF)

89

和製外国人 90

ディスコ発アイドル 91

同期のアイドルたち 92

ジャニーズのダンス力 96

反ジャニーズ 99

Jダンスとジャニーズの境界線 102

脱アイドル 103

大物プロデューサーとの出会い 106

小室とブラック 109

不透明な接点 111

おおいなる矛盾 114

水と油 116

TRFという誤解 117

渋谷系 VS 六本木系の虚構 119

渋谷性 120

伝達速度がダンスをつくる 121

安室奈美恵

128

ユーロビートをダンスで

130

重いダンス

132

安室の16ビート

134

小室の16ビート

137

安室と小室の“鼓動”

140

R & B へ

143

小室家のダンサー

144

小室家以外のR & B

146

SUITE CHIC

150

逆風

152

ダンサーからパフォーマー、そしてアジアへ
154

歌姫＋舞姫
156

モーニング娘。 158

バラバラ
160

鬼コーチ
162

だれもがマネしたくなるダンス
166

LOVEマシーン
169

変舞
171

変舞の変化
173

ハロヲタ
174

ミラーではなくコピー
176

ヲタ芸
178

サイリウムダンス
179

ハロヲタから見るダンス風景
181

A
K
B
48
186

四十二番街
188

専用劇場
190

踊れない者を優先する
192

成長過程を見せる
195

櫛坂
46
196

A K Bと櫛坂
197

マドンナのバックダンサーが振り付け
200

『僕』に込められたダンス
203

逆張りの振り付け
206

笑わないダンス
208

Perfume

211

ハンドモーション

212

ダンスは科学する

214

フィンガーダンス

217

対称性とアイドル黄金律

218

異なる振りでそろろう

219

第

5

章

三浦大知

224

ダンス版アカペラ

225

無音シンクロダンスは無音ではない

226

ダンサーは口の中で音をつくる
230

大いなる知
230

声^がダンスをつくる
231

ハウスミュージック^が転換点
233

声をかさねて…
235

Foorin

238

陽性の舞
239

世界の共通言語
241

あとがき
245

第

1

章

風見慎吾

バラエティ番組『欽ちゃんの週刊欽曜日』（1982～1985年）に出演中、「僕笑っちゃいます」（1983年）をひっさげ歌手デビューした風見慎吾。その1年半後にリリースした「涙のtake a chance」（1984年）にて早くもイメチェンを図ったとき、伝家の宝刀に彼がえらんだのがブレイクダンスである。「バラエティ系アイドル」から「踊るアイドル」へ。この短いスパンで華麗なる転身を遂げた彼をおおいに刺激したのも、『フラッシュダンス』での「60秒」だった。

つまり「僕笑っちゃいます」の発表直後に映画からの影響を受けたことになり、そこから約1年かけブレイクダンスの基本技術を身につけることになる。ムーンウォーク、ポップ（全身の筋肉を「弾く」ように踊る）、ロック（身体に「施錠」するように一瞬一瞬止めながら踊る）、そしてウインドミル（「風車」のように開脚しながら背中中で回転する技）。現在ならその期間でも十分マスターできる基本中の基本だが、ネットのない情報寡少だった時代にそのどれかひと

LL BROTHERS

矢間敬規(兄) & 晶也(弟) による兄弟ダンスユニット。〃LL〃と呼ばば〃クールJ〃と応答したくなる諸兄なら、むしろそのようなストロング型ラッパー(LLクールJ)よりもKID'N PLAY(2人組)のほうが、彼ら兄弟の実態により近いことを知っているだろう。

80年代オールドスクール期にあつてヒップホップに新潮流をもたらしたKID'N PLAYは、しかしながらシリアスなラップファンにはとことんウケがわるい。ところがダンサーとしての立ち位置に彼らを移動してやると、ふしぎなくらいに評価も変わる。それが証拠にKID'N PLAYの面目躍如である軽快なステップは、結果的にブレイクダンスに引導を渡した〃ニユーダンス〃と呼ばれるものだったが、その一部スタイルには彼らの名前〃KID'N PLAY〃がそのまま命名されている。面对称となったふたりが片足を蹴り上げ、おなじ動きをするというもの。これを、身長180センチ代と上背のあるLL BROTHERSにやらせればどんなミラクルが起こるか。ネット以前、テレビという〃絵が動く箱〃によってふたりが時代の

第

2

章

H I R O (EXILE)

ダンスグループなのかヴォーカルグループなのか、それともコーラスグループなのか。男性ばかりであるのはなぜなのか。そもそも何人いるのか。

“EXILEとは何者なのか”という議題を前に、ある一定の人たちはそのような疑問をもつ。しかしここでの“EXILE”を“Jダンス”に置き換えるだけで、それらの疑問にこれ以上踏み込む余地がないことに気づく。ヴォーカルありコーラスありのダンスグループを中心に、男子が積極的に参加しパイが拡大したJダンス。その歴史はEXILEの成長記録を追いかけることで似たような体験ができる。

前史

そもそもEXILEはEXILEではなかった。EXILEの前はJ SOUL BROTH
HERS（初代）と名乗り、それ以前はJSBという記号で、さらにさかのぼるとZOOと

SAM (TRF)

ここまでを時系列で整理しておく。風見慎吾は1984年の「涙のtake a chance」をもってダンスに傾倒し、翌年「Beat On Panic」で（ボーイとして）完全燃焼した。1989年『DADA』に出演した若者が集まりZOOが結成されると、翌年CDデビューを果たす。同年『ダンス甲子園』に出演したLL BROTHERSは1991年にCDデビュー。ドラマにも進出するが、1993年のシングル「HEY! MAN, 当たって砕けろ」以降は芸能界から距離を置く。つまりダンス番組とダンスグループが一体となってダンスブームを巻き起したのが90年代前半。Jダンスの潮流にあてはめるなら第一章と見なせる。

他方80年代はJダンスの序章になるが、この時代に活躍していたのは風見の他にもいくつかのグループがいた。90年代にTRF（歌YU-KI、DJ KOO+ダンサー3人）として脚光を浴びるSAMもその中のひとり。1984年にダンスヴォーカルユニットRitRat（リフラグ）でデビューしている。リードをとるCHAPPYに、SAMをふくむ4人がコーラス

第

3

章

安室奈美恵

90年代中葉、小室がつくった「渋谷の声」はそのまま「小室ファミリー」となって増産体制に入った。篠原涼子、観月ありさ、大賀埜々、内田有紀、華原朋美、鈴木亜美、そして「育てた」といえる唯一の歌手」と本人が語るKEIKO (globe/元・妻) ……。

すべてを列挙すればキリがないが、その中でもひととき「おおきな声」にわたしたちの耳は鋭く反応させられることになる。換言するなら「渋谷の声」にかぎりなく近い「渋谷の歌」として受け止めた。

小室が安室を初めて観たとき、彼女はテレビの中で白い歯を見せながら飛んだり跳ねたりしていた。1993年、デビューのきっかけとなったスーパードンキーホーの一員として出演した菓子のCM。その15秒というかぎられた時間内で、小室が彼女の才能を吟味するためにはいくつかの条件がそろわなくてはならない。結論を先にすれば、このとき小室は「印象」

モーニング娘。

つんく♂（シャ乱Q）の『LOVE論 あなたのいいトコ探します』（新潮社）をつらつらと読みすすめるうちにモーニング娘。のようなグループをいかに生み出せたのか、理解に苦しむことはなくなっていた。そこには成功の方程式だとか奇跡の賜物だとかといった外連味がすこしもない。たとえばこんな一節。

そこそこ程度のかわいさなら、ブサイクのほうがかっこいい!!

“モー娘。Ⅱブサイク”ではなく“かっこいい”を優先することが大事であると解釈すべきなのだろう。そしてその“かっこいい”は、つんく♂ならではの美学に貫かれたもの。要約すると“発展途上人”。つんく♂の興味が最大限に注がれるのは現在の姿ではない、未来の像である。

第

4

章

AKB48

“アイドルの大家族化”を画策、成功にみちびいた秋元康の手腕はモー娘。あつてのことだった。ある記事にて秋元はモー娘。の大家族化に嫉妬したことを披瀝しながら、つんく♂の仕事に喝采を送っている。

いっぽうのつんく♂も“秋元仕事”にシンパシーを抱いていたことはまちがいない。モー娘。が大家族化に向かうきっかけとなった第2期オーディション（1998年）を実行するにあたって、彼の脳裏に昭和アイドルの顔が浮かぶとともに、個々の頭数がカウントされていく。するとクローンのように増殖していくことがいかに希有であるか、あらためておもい知る。

過去にピンクレディやキャンディーズが増えたりしましたか？ 唯一あったのはおニヤン子クラブ全体の人数が増えたりしたもの、その中の「うしろ髪ひかれ隊」自体

Perfume

笑顔が武器になる時代はおわった。櫛坂46があらたなアイドル像を打ち立てたように、べつの世界でも“笑わない”アイドルが活躍していた。Perfumeには“笑わない”という枕はつかないが、感情を取り除いていく過程で魅せる“無機質な笑み”は、これまでの“カワイイ”だけのアイドルとはどこかで切り離して語らなければならない。

23時59分、新宿通りを歩く3人は、百貨店前を通りすぎる瞬間ショーウィンドウのマネキンと入れ替わると、EDMの軽快な波形に乗って歌い踊り出す。伊勢丹新宿店とのコラボレーション楽曲となった「Pick Me Up」(2015年)のMVにて、彼女たちに課せられた演出はさしずめ“倒錯する肉体”。“モード”という刹那の世界でのみ呼吸ができるマネキンとの肉体交換によって、3つの肢体が青白く輝く。インスタ時代のフォトジェニックな現代女子がきらびやかに生きる証であるかのように。

第

5

章

三浦大知

“ダンスにことばはいらない” という常套句はわたしたち第三者側が漠然とイメージしている幻想であって、当事者であるなら、プロであるならあるほどこの句の“軽さ”を知っている。ダンサーは身体を、膨大な言語が蓄積された辞書のように管理し、それを物語化するにあたって身体をどのように動かすか、無意識に考えている。

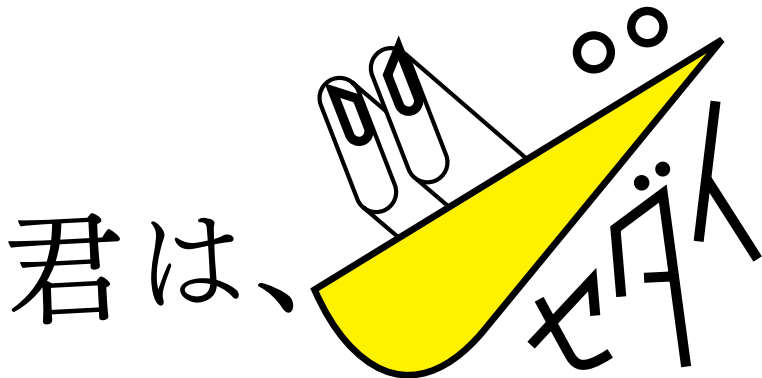
Perfume や ZOO にて触れたように、彼らの哲学とは “ことばを使わずダンスで会話をする” というものだった。「ダンスチームとは言葉を話さない巨人」と喻えた HIRO は、EXILE を立ち上げるにあたってその巨人に “歌わせる” という目的のもと、ダンサーにはダンスを、歌手には歌をといてつけた。だがこれについても、巨人（ダンサー）が内包することばを外部に引き出すため “歌手” を重用したにすぎない。

では3人すべてが歌手である Perfume はどうだったか。おさらいになるが、彼女たちもとくべつな意識をことばに注いでいた。それもリリックシートから漏れたものまで拾い集め、

Floorin

必修化がもたらすダンサーの低年齢化Ⅱ “キッズダンサー”により、将来歌手をめざすターの卵が続出することは想像にかたくない。これによりダンスを軸足とした “あらたな歌手像” についての議論が活発化することが予想され、またそこでの課題に変声期の注意点がくわわることも考えられる。よって “変声期中は声を休ませ体を鍛える” という三浦大知の経験、処方はこの時代スタンダードになりつつある。

これまで触れてきたように、大知はこの世界の露払いとして模範となるような答えをいくつか提示してきた。そしてそこから見えてきたものはポジティブな姿勢をどこまでも維持するという生き方。活字にすると平凡だが、平凡であることはたいがい真実であり、それが成



何と闘うか？
<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、
行動機会提案サイトです。読む→考える→行
動する。このサイクルを、困難な時代にあっ
ても前向きに自分の人生を切り開いていこう
とする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月
開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。
「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、
すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!